

10. 小児歯科診療室開設後 2 年間の来院患者状況

細矢由美子，○平田 康博，古豊 泰彦，
田口 知義，松本 史子，国松 尚美，
後藤 譲治（長大・歯・小児）

昭和58年 4 月，長崎大学歯学部の小児歯科学講座が開設され，同年 6 月より小児歯科外来診療が開始された。

細矢等は，長崎県における小児の歯科診療状況を把握し，大学病院小児歯科の立場より地域医療に参加する事を目的に，歯科医師会会員を対象にアンケート調査を行いその結果を第 2 回日本小児歯科学会九州地方会において発表した。

今回は，長崎大学歯学部小児歯科診療室開設後 2 年間における来院患者の実態を調査したので報告する。

調査は，小児歯科院内カルテを使用し，そこに記載されている事項を調査用紙に記入した。調査項目は，Ⅰ．来院調査（月別新患来院数，患児の年齢，性別，主訴，全身疾患の有無，紹介の有無，患者の住所，通院所要時間，来院の動機，治療のための通院状態，定期診査受診状態，治療形態），Ⅱ．歯髄，根管の処置，Ⅲ．歯冠修復，Ⅳ．咬合誘導に分類した。

調査用紙に記入したすべての結果について，統計処理を行い，来院患者状況をまとめ，患者の来院動向，特徴，問題点について分析し，今後改善すべき点について検討を行った。